東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	大林典弘	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学④	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・これまで1～2年次で学習した柔道整復学の知識・技術を基に、主に骨折・脱臼についての知識を深め、評価法・整復法・固定法・後療法などの臨床現場で必要な柔道整復術を理解・習得する。授業で学んだことを模擬的に体験することにより、知識を深め技術の修得を目標とする。

【講義概要】
・それぞれの損傷について、発生要因、機序、骨片転位に作用する筋群との関連、特徴および臨床症状を中心に、その応急処置の重要性、施術の意義を理解し、技術を修得する。

【成績評価方法】
・授業内実施の確認テスト、履修状況(課題の提出、授業への積極的な参加など)で評価する。
・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。
・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10％の範囲内で減点法にて評価する。
※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

【授業の特徴・形式】
・演習形式と講義形式の２パターンで実施する。
・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要となる基礎的知識を復習しておくこと。
・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。
・単元ごとに確認小テストを実施するので授業理解とともに各自積極的に演習にて知識定着はかること。
●履修にあたっての留意点
１．１講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。
　欠席することの無いように体調管理には充分配慮すること。
２．授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。
　図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。
※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【教科書・参考書】
・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版　南江堂
・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版　南江堂
・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版　南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション（授業の進め方・概要について） 柔道整復師と「骨・関節損傷総論」①（骨折分類、症状） 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義
2	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」②（骨折合併症、小児・高齢者骨折） 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第１回講義分)	講義
3	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」③（脱臼分類、症状） 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第２回講義分)	講義
4	柔道整復師と「神経・筋疾患」 柔道整復師に必要な「神経・筋疾患」に関する知識を学ぶ。それぞれの患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第３回講義分)	講義
5	柔道整復師と「診察・治療法」 柔道整復師に必要な「診察・治療法」に関する知識を学ぶ。それぞれの患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第４回講義分)	講義
6	柔道整復師と「下肢の疾患」① 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第５回講義分)	講義
7	柔道整復師と「下肢の疾患」② 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第６回講義分)	講義
8	柔道整復師と「下肢の疾患」③ 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第７回講義分)	講義
9	柔道整復師と「下肢の疾患」④ 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第８回講義分)	講義
10	柔道整復師と「下肢の疾患」⑤ 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第９回講義分)	講義
11	柔道整復師のプロフェッショナリズム 柔道整復学と柔道との関連、臨床現場で必要な柔道整復術を理解・習得する。	講義
12	復習1(第１回～第１０回の復習を目的とする) 事前学習：第１回～第１０回の配布資料を再読すること 事後学習：配布資料を見直すこと 小テスト(第１～１０回講義分)	演習
13	柔道整復師と「上肢の疾患」① 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義
14	柔道整復師と「上肢の疾患」② 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第１３回講義分)	講義
15	復習2(第１回～第１４回の復習を目的とする) 事前学習：第１回～第１４回の配布資料を再読すること 事後学習：配布資料を見直すこと	講義
16	柔道整復師と「上肢の疾患」③ 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第１４回講義分)	講義

17	柔道整復師と「上肢の疾患」④ 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第16回講義分)	講義
18	柔道整復師と「上肢の疾患」⑤ 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第17回講義分)	講義
19	柔道整復師と「上肢の疾患」⑥ 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第18回講義分)	講義
20	復習3(第13回～第19回の復習を目的とする) 事前学習：第13回～第19回の配布資料を再読すること 事後学習：配布資料を見直すこと 小テスト(第13～19回講義分)	演習
21	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」① 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義
22	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」② 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第21回講義分)	講義
23	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」③ 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第22回講義分)	講義
24	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第23回講義分)	講義
25	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第24回講義分)	講義
26	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織③) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第25回講義分)	講義
27	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第26回講義分)	講義
28	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第27回講義分)	講義
29	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織③) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第28回講義分)	講義
30	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織③) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。 小テスト(第29回講義分)	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	村越　嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑤	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師からみた柔道整復学と生理学のつながりを学び実践に活用できることを授業のねらいとする。
・柔道整復師に必要な生理学領域の知識を総合的に用いて様々な問題の対応を可能にすることを到達目標とする。

【講義概要】
・これまで学んだ柔道整復学と生理学の知識を基に実践を想定し講義・演習を行う。

【成績評価方法】
・授業内演習の全平均で評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・合格点に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。
・プリントを配布し、講義を中心に進めていく。
・これまでの使用した柔道整復理論と生理学の教科書、資料などを揃えておき、次回行われる授業内容に関して予習を行っておくこと。
・また、復習に時間をかけ、内容を全て理解すること。

【教科書・参考書】
・柔道整復学理論編第7版　南江堂
・生理学第4版　南江堂
・生理学インパクト　医道の日本社

【　講義の内容・日程　】

回	講義内容	備考
1	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　総論編	講義
2	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　血液編	講義
3	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　循環編	講義
4	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　呼吸編	講義
5	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　消化編	講義
6	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　吸収編	講義
7	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　栄養と代謝編	講義
8	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　体温編	講義
9	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　尿の生成と排泄編	講義
10	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　内分泌編①	講義
11	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　内分泌編②	講義
12	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　生殖編	講義
13	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　骨編	講義
14	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　体液編	講義
15	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　神経編①	講義
16	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　神経編②	講義
17	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　運動編①	講義
18	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　運動編②	講義
19	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　筋肉編	講義
20	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　感覚編	講義
21	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　感覚編	講義
22	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習①	講義
23	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習②	講義
24	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習③	講義
25	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習④	講義
26	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習⑤	講義
27	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習⑥	講義
28	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習⑦	講義
29	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習⑧	講義
30	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識　演習⑨	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	西 健喜	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑥	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復の臨床応用を理解するために必要な解剖学的な基礎知識を幅広く学習する。
・柔道整復師に必要な解剖学の知識を用い、様々な問題に対応を可能とすることを到達目標とする。

【講義概要】
・1，2年時までに学んだ柔道整復理論と解剖学の知識をもとに、臨床応用を想定しうる講義・演習を行う。
・プリントを中心に講義を行い、問題演習にて習熟度の確認を行う。

【成績評価方法】
・授業内確認テストおよび授業態度において判定を行う。
・授業内確認テストは合計6回行い、その平均を総合評価点とする。
・居眠り、授業に無関係な私語、電子機器操作などの不適切な授業態度については10%の範囲内での減算方式で評価に加える。
・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。
・授業内確認テストが合格点に満たない（60点未満）場合には課題提出等を求める場合がある。

【授業の特徴・形式】
・講義形式と問題演習形式にて行う。
・合計6回の授業内確認テストにて習熟度の確認（総合評価に関わる）を行う。
・復習に時間をかけ、内容をすべて理解すること。約60時間の授業外学修が必要になる。
＊授業の進捗度によって、内容の変更・増減・順序の入れ替え等を行う場合がある。
＊授業内確認テストを休んだ場合には、原則翌週の授業を行うまでに担当教員に連絡すること。

【教科書・参考書】
・配布プリント
・柔道整復学（理論編）　全国柔道整復学校協会　第6版　医歯薬出版
・解剖学　全国柔道整復学校協会　第2版　医歯薬出版

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション・柔道整復師と「骨の構造、関節の構造」 骨折および、その治癒過程の理解に必要な「骨の構造」、また脱臼の理解に必要な「関節の構造」の知識を学ぶ。	講義・演習
2	柔道整復師と「頭頸部の骨筋、上肢体幹の骨、上肢体幹の筋」 頭蓋骨損傷の理解に必要な「頭蓋骨の構造」「頭頸部の筋」、骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹の骨構造」、骨転移の理解に必要な「上肢・体幹の筋」の知識を学ぶ。	講義・演習
3	柔道整復師と「上肢体幹の骨筋、下肢の骨筋」① 骨折および脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹の骨構造」、骨折時の骨転移の理解に必要な「上肢・体幹の筋」、「下肢骨の構造」、骨折時の骨転移の理解に必要な「下肢の筋」の知識を学ぶ。	講義・演習
4	柔道整復師と「上肢体幹の骨筋、下肢の骨筋」② 骨折および脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹の骨構造」、骨折時の骨転移の理解に必要な「上肢・体幹の筋」、「下肢骨の構造」、骨折時の骨転移の理解に必要な「下肢の筋」の知識を学ぶ。	講義・演習
5	第1～4回 「骨」「筋」の復習を行う。 *授業内確認テストを実施する。	講義・演習
6	柔道整復師と「細胞と組織」 損傷の治癒過程に関係する「細胞と組織」の知識を学ぶ。	講義・演習
7	柔道整復師と「脈管系（心臓～動脈）」 外傷時の合併症の理解に必要である「脈管系」の知識を学ぶ。	講義・演習
8	柔道整復師と「脈管系（静脈～リンパ）」 外傷時の合併症の理解に必要である「脈管系」の知識を学ぶ。	講義・演習
9	第5回～7回 「細胞と組織」「脈管系」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義・演習
10	柔道整復師と「消化器（口腔～直腸）」 外傷時の合併症の理解に必要な「口腔内の構造」、および「消化管（食道～直腸）」の知識を学ぶ。	講義・演習
11	柔道整復師と「消化器（肝臓・胆嚢・膵臓）、呼吸器（鼻～肺）①」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「消化器（肝臓・胆嚢・膵臓）」、「呼吸器（鼻腔～）」の知識を学ぶ。	講義・演習
12	柔道整復師と「呼吸器（鼻～肺）②」「泌尿器（腎臓～尿道）」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「呼吸器（～肺）」、「泌尿器（腎臓～尿道）」の知識を学ぶ。	講義・演習
13	柔道整復師と「生殖器（男性・女性）」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「生殖器（男性・女性）」の知識を学ぶ。	講義・演習
14	第10回～第13回 「消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義・演習
15	第1回～第13回の問題演習・知識定着のための反復演習	講義・演習
16	柔道整復師と「神経系（脳）」 頭部外傷時の合併症に関連する中枢神経障害の理解に必要な「神経系（脳）」の知識を学ぶ。	講義・演習

17	柔道整復師と「神経系（脊髄・伝導路）」 外傷時の合併症に関連する中枢・末梢神経の障害の理解に必要な「神経系（脊髄・伝導路）」の知識を学ぶ。	講義・演習
18	柔道整復師と「神経系（末梢神経）」 外傷時の合併症に関連する末梢神経障害の理解に必要な「神経系（末梢神経）」の知識を学ぶ。	講義・演習
19	柔道整復師と「感覚器（外皮・視覚器・聴覚器）」 外傷時に合併する皮膚損傷の理解に必要な「外皮」および頭部外傷の合併症の理解に必要な「視覚器・聴覚器」の知識を学ぶ。	講義・演習
20	柔道整復師と「内分泌器」 骨の癒合および病的骨折の発生機序の理解に必要な「内分泌器」の知識を学ぶ。	講義・演習
21	第16回～第20回「神経系」「感覚器」「内分泌器」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義・演習
22	第１回～第4回　柔道整復師に必要な「骨・筋」についての問題演習と再復習	講義・演習
23	第6回～第8回　柔道整復師に必要な「細胞と組織」「脈管系」についての問題演習と再復習	講義・演習
24	第10回～第12回　柔道整復師に必要な「消化管」「呼吸器」についての問題演習と再復習	講義・演習
25	第12回～第13回　柔道整復師に必要な「泌尿器」「生殖器」についての問題演習と再復習	講義・演習
26	第14回～第17回　柔道整復師に必要な「神経系」についての問題演習と再復習	講義・演習
27	第18回～第21回　柔道整復師に必要な「感覚器」「内分泌」についての問題演習と再復習	講義・演習
28	総合復習1　第22回～第28回のまとめ（知識定着を目的とした反復演習） *授業内確認テストを実施する。	講義・演習
29	総合復習2　第22回～第28回のまとめ（知識定着を目的とした反復演習） *授業内確認テストを実施する。	講義・演習
30	総合復習3　第22回～第28回のまとめ（知識定着を目的とした反復演習）	講義・演習

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	煙山奨也、大林典弘、村越嵩紀、西 健喜	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑦	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
最終学年として、これまでに学んだ教科について再確認し、柔道整復師としてスタートラインに立つために
最低限必要な知識の修得を狙いとする。
柔道整復師に必要な幅広い知識と応用力を身につけることを到達目標とする。

【講義概要】
柔道整復師の業務に関連する最低限必要な知識に関する演習を行う。
この授業は柔道整復学に関連する問題演習を中心にレポート作成を課題とする。
毎回の演習問題に対し不正解だったものについて解答解説レポートを作成する。

【成績評価方法】
・原則、毎時限、授業内で実施する演習問題の平均点を評価とし、指定レポートを評価点に加味する。
・指定されたレポートを提出していない者は、該当回の演習問題の点数を評価に加えないものとする。
・欠席した場合は、指定された補習にて授業内で実施した演習問題を実施し、
　かつレポートを提出することにより、その回の評価を6割と換算する。

【授業の特徴・形式】
演習を中心とする。
これまで学んだ科目を包括的に問題演習し、不正解だったものについて解答解説レポートを作成する。
事前学習（予習）として、これまで学んだ柔道整復師に必要となる基礎的知識を復習しておくこと。
事後学習（復習）として、演習に出題された内容をすべて確認すること。
理解度、進捗状況により、講義内容の順番を変更することがある。

【教科書・参考書】
適宜配付するプリントを使用する。
その他、解答解説に必要な参考書、これまで使用した教科書等を準備すること。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション　授業の進め方・概要について 柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、病理学との関連 柔道整復に関わる呼吸器疾患を中心に	講義
2	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、病理学との関連 柔道整復に関わる循環器疾患を中心に	演習
3	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、病理学との関連 柔道整復に関わる消化器系疾患を中心に	演習
4	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、運動学との関連 柔道整復に関わる上肢の運動器疾患を中心に	演習
5	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、運動学との関連 柔道整復に関わる下肢の運動器疾患を中心に	演習
6	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、運動学との関連 柔道整復に関わる体幹の運動器疾患を中心に	演習
7	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科学との関連 柔道整復に関わる内分泌疾患を中心に	演習
8	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科学との関連 柔道整復に関わる神経疾患を中心に	演習
9	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科学との関連 柔道整復に関わる血液疾患を中心に	演習
10	柔道整復学と解剖学、生理学、病理学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる腫瘍を中心に	演習
11	柔道整復学と解剖学、生理学、病理学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わるアレルギーを中心に	演習
12	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる運動療法を中心に	演習
13	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる物理療法を中心に	演習
14	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、社会保障制度との関連 柔道整復に関わる頭部外傷を中心に	演習
15	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、社会保障制度との関連 柔道整復に関わる救急医学を中心に	演習
16	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、運動学との関連 柔道整復に関わる膠原病を中心に	演習
17	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、運動学との関連 柔道整復に関わる遺伝病を中心に	演習
18	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、運動学との関連 柔道整復に関わる老年医学を中心に	演習
19	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科学との関連 柔道整復に関わる骨の疾患を中心に	演習
20	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科学との関連 柔道整復に関わる関節の疾患を中心に	演習
21	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科学との関連 柔道整復に関わる筋の疾患を中心に	演習
22	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、関係法規との関連 柔道整復に関わる胸腹部外傷を中心に	演習
23	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、関係法規との関連 柔道整復に関わる医療法を中心に	演習

24	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる感染症を中心に	演習
25	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる職業病を中心に	演習
26	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、関係法規との関連 柔道整復に関わる各種身分関係法を中心に	演習
27	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、関係法規との関連 柔道整復に関わる社会保障制度関連法を中心に	演習
28	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる公害を中心に	演習
29	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる手技療法を中心に	演習
30	柔道整復学と解剖学、生理学、病理学、関係法規との関連 柔道整復に関わる炎症を中心に	演習

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生　第1期、2期	佐藤博信	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	外科学概論	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
一般外科（移植外科・脳外科領域も含め）について知識を修得する
炎症や腫瘍などについても外科に関する領域の知識を修得する
手術に関する事項（解剖・輸血・消毒・麻酔・合併症など）の知識を修得する
ショック・心肺蘇生について知識を修得する
暗記するだけでなく疾患のメカニズムを理解する

【講義概要】
1期は外科の一般的事項について講義する
2期は外科的な各疾患について講義する

【成績評価方法】
定期試験（100％）で評価する　100点満点で60点以上を合格とする

【授業の特徴・形式】
パワーポイントを用いて講義する
動画も摘示使用する

【教科書・参考書】
外科学概論　南江堂　改訂第4版

【　講義の内容・日程　】

回		講義内容	備考
1	4/11	外科学とは・損傷	講義
2	4/18	熱傷・その他損傷	講義
3	4/25	炎症と外科感染症	講義
4	5/9	腫瘍概念	講義
5	5/16	腫瘍診断	講義
6	1/23	腫瘍治療	講義
7	5/30	ショック分類・治療・合併症	講義
8	6/6	輸液・輸血	講義
9	6/13	消毒・滅菌/外科的診断法	講義
10	6/20	手術	講義
11	6/27	麻酔	講義
12	7/4	移植と免疫	講義
13	7/11	出血と止血	講義
14	7/18	試験解説/救急蘇生法	講義
15	8/1	脳神経外科疾患	講義
16	8/29	脳神経外科疾患	講義
17	9/5	甲状腺・頚部疾患	講義
18	9/12	胸壁・呼吸器疾患	講義
19	9/19	胸壁・呼吸器疾患	講義
20	9/26	肺疾患	講義
21	10/3	心臓疾患	講義
22	10/10	心臓疾患	講義
23	10/17	脈管疾患	講義
24	10/24	乳腺疾患	講義
25	10/31	腹部外科疾患　症状・検査	講義
26	11/7	食道・胃・小腸・大腸	講義
27	11/14	肝・胆嚢・膵臓	講義
28	11/21	急性腹症	講義
29	11/28	体表・その他の外科的疾患	講義
30	12/12	国試について	講義

東京柔道整復専門学校

３学年　午前・昼間部

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース（3年生）	昼間部：午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	1年生 1・2期	仲座政宏	
講義区分	授業科目名		
基礎分野・専門分野	衛生・公衆衛生学	単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
①衛生学・公衆衛生学の目的は、人々を取り巻く環境を理解し、傷病を予防し、健康の保持・増進を図ることである。
②生態系を基盤とした集団および個人の健康を理解する。また、人間の生涯のそれぞれの段階における公衆衛生の実践活動を通して、予防活動の重要性を教授する。
③保健医療及び福祉・介護体系の中で、柔道整復師としての管理能力を身につける。

【講義概要】
①公衆衛生学の概念、健康と環境、健康指標、感染症の予防、生活環境の保全、保健活動の方法論の基礎を学ぶ。
②環境諸要因が個人の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。
③公衆衛生活動の様々な実践活動を学び、人々の健康を守るための組織、機関および従事者の役割や機能への理解を深める。

【成績評価方法】
定期試験の成績、毎回の授業後に実施する小テスト（国試形式４択で３ないし５問）の提出状況（累積点数）を総合的に加味して

【授業の特徴・形式】
①授業で話す内容は、教科書に準拠しますが、毎回資料（パワーポイントで作成した）を配布する。
②毎回授業の終了時に、小テスト（３ないし５問：国試形式の４択）を実施し、授業の理解度をチェックする。

【教科書・参考書】
教科書：衛生学・公衆衛生学　改訂第６版、公益社団法人全国柔道整復学校協会　監修、南江堂
参考書：国民衛生の動向023/2024, 一般財団法人厚生労働統計協会

【　講義の内容・日程　】				
回	実施日	講義内容		備考（教科書）
1	4/10	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	第１章	1-7頁
2	4/17	健康の概念、アルマータ憲章、ヘルスプロモーション、WHO憲章	第２章	9-21頁
3	4/24	健康指標、国民生活基礎調査と患者調査		
4	5/8	疾病予防と健康管理、疾病の自然史と予防活動	第３章	23-39頁
5	5/15	健康日本２１と健康増進法、生活習慣病の概念と予防		
6	5/22	感染症の予防、感染症成立の３大要因、予防接種	第４章	31-46頁
7	5/29	消毒の種類の種類と方法、院内感染対策と消毒（感染症の予防）	第５章	49-59頁
8	6/5	環境と健康（人間と環境の相互作用）	第６章	61-95頁
9	6/12	環境汚染と健康（地球的規模の環境問題）		
10	6/19	生活環境と食品衛生活動（上水・下水道の健康影響）	第７章	97-118頁
11	6/26	食中毒統計と予防（食品の安全対策、栄養改善）		
12	7/3	母子保健（母子保健に関する統計指標）	第８章	121-130頁
13	7/10	母子保健対策と課題（健やか親子２１）		
14	7/17	学校保健（学校保健の領域と対象者）	第９章	135-151頁
15	7/31	学校における保健活動（学齢期の発育・体力・傷病状況）		
16	8/28	産業保健（我が国の労働安全衛生管理体制）	第１０章	153-174頁
17	9/4	職場における健康診断と健康増進（作業関連疾患とその予防対策）		
18	9/11	成人・高齢者保健（成人。高齢者の有訴者率、受領状況、医療費等）	第１１章	175-191頁
19	9/18	精神保健（精神障害者の医療・福祉の現状と課題）	第１２章	193-203頁
20	9/25	地域保健と国際保健（地域保健活動、国際保健）	第１３章	205-218頁
21	10/2	衛生行政と保健医療の制度【衛生行政機構（組織）の概要、介護保険制度】	第１４章	219-242頁
22	10/9	保健医療行政の財政（国民医療費の動向）		
23	10/16	医療の倫理と安全の確保（インフォームドコンセント）	第１５章	245-252頁
24	10/23	疫学（疫学の概念と原因究明のための研究方法）	第１６章	253-263頁
25	10/30	集団の健康状態の把握（有病率・罹患率・死亡率等）		
26	11/6	集団健康診断（検査精度の指標：敏感度・特異度・陽性的中度・陰性的中度）	第１６章	
27	11/13	調査結果の解釈と評価（選択バイアス・情報バイアス）		
28	11/20	交絡・因果関係（①関連の強固性　②関連の一致性　③関連の時間性　④関連の特異性		262-264
29	11/27	⑤関連の整合性		
30	12/11	まとめ　　国際疾病分類ICD-10・ICD-11		263-264

東京柔道整復専門学校

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース（3年制）	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	小堀　孝浩	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	リハビリテーション医学	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】

リハビリテーション医学を学ぶことで、卒業後の臨床現場で役立つ評価の仕方や技術・アプローチを理解・身につけることを目標に取り組む。そして、リハビリテーションにおける関わり方や多職種連携のできる医療従事者になれるように、知識や技術を学ぶ。また、リハビリテーション医学に関わる障害や各疾患についても深く学ぶ。

【講義概要】

授業は患者のもつ障害に対し、医師および専門職が力を合わせて良いリハビリテーション医療を行うために、リハビリテーション医学の知識と技術を学習する。具体的には、①障害やリハビリテーションの方法を学ぶことで、リハビリテーション医学の理解を深める。②リハビリテーションに必要な検査を学び、実際に利用できるようになる。③障害や各疾患におけるリハビリテーション医学の知識を深め、臨床現場で必要な病態・検査・治療法を理解できるようになる。

【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・教科書と資料を利用し、講義形式で行う。
・関節可動域の測定や徒手筋力テストなど評価法などの実技も行えたら行う。

【教科書・参考書】

・リハビリテーション医学　南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	リハビリテーションの総論① p.1-18	
2	リハビリテーションの総論② p.19-30	
3	リハビリテーション評価学① p.31-56	
4	リハビリテーション評価学② p.31-56	
5	リハビリテーション評価学③ p.31-56	
6	リハビリテーション評価学④、リハビリテーション障害学と治療学① p.31-56、p.57-108	
7	リハビリテーション障害学と治療学② p.57-108	
8	リハビリテーション障害学と治療学③ p.57-108	
9	リハビリテーション医学の関連職種 p.109-117	
10	リハビリテーション治療技術① p.119-155	
11	リハビリテーション治療技術② p.119-155	
12	リハビリテーション治療技術③ p.119-155	
13	リハビリテーション治療技術④ p.119-155	
14	リハビリテーション治療技術⑤ p.119-155	
	期末試験	
15	試験解説・リハビリテーション評価学の実技①	
16	1学期の復習・高齢者のリハビリテーション①（フレイル・認知症等） p.157-176	
17	高齢者のリハビリテーション②（パーキンソン病・脳卒中①） p.157-176	
18	高齢者のリハビリテーション③（パーキンソン病・脳卒中②） p.157-176	
19	運動器のリハビリテーション①（骨粗鬆症①） p.177-201	
20	運動器のリハビリテーション②（骨粗鬆症②） p.177-201	
21	運動器のリハビリテーション③（上肢損傷後症候群①） p.205-217	
22	運動器のリハビリテーション④（上肢損傷後症候群②） p.205-217	
23	運動器のリハビリテーション⑤（腰痛症） p.231-238	
24	運動器のリハビリテーション⑥（頚腕症候群） p.225-231	
25	運動器のリハビリテーション⑦（下肢損傷後症候群①） p.217-225	
26	運動器のリハビリテーション⑧（下肢損傷後症候群②） p.217-225	
27	運動器のリハビリテーション⑨（アキレス腱断裂）、リハビリテーション評価学の実技② p.238-244	
28	リハビリテーションと福祉、障害者スポーツ、国家試験対策① p.245-250、p.251-257	
29	国家試験対策②・リハビリテーション評価学の実技③	
	期末試験	
30	試験解説・国家試験対策③	

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期	◎瀬谷 智美 菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	高齢者の外傷予防	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】

・高齢者の身体的特性を捉え、柔道整復師としての関わり方を学ぶ。
・機能訓練指導員として関わり方を学び、運動プログラムを立案できるようにする。

【講義概要】

・高齢者の身体的特性、認知症等の疾患を理解する。
・高齢者の身体特性を考慮した運動プログラムを立案する。

【成績評価方法】

・定期試験7割、授業内試験3割で評価を行う。※試験内容は授業内で告知する。
・2/3以上の出席がない場合は、レポートの提出を必須とし、提出がなければ成績評価は行わない。
・60点に満たない者は所定の補習を受けた後、再試験を受験することができる。

【授業の特徴・形式】

・基本的に講義形式で実施していくが、運動プログラムの考案はグループワーク形式で実施。

【教科書・参考書】

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	柔道整復師と介護保険、発達と老化の理解	実技
2	認知症の理解	実技
3	高齢者介護とICF、介護予防	実技
4	ロコモティブシンドローム、高齢者自立支援の理解	実技
5	機能訓練指導員と機能訓練	実技
6	機能訓練指導員と機能訓練（運動プログラムの立案）	実技
7	機能訓練指導員と機能訓練（運動プログラムの立案）	実技
8	総復習	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期	◎瀬谷智美 菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	競技者の外傷予防	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要なテーピング技術・ストレッチ方法を習得する。

【講義概要】

・足関節、膝関節、肩関節、指関節などの基本的なテーピングの巻き方を習得する。
・基本的なストレッチ方法を習得する。

【成績評価方法】

・定期試験5割、授業内試験5割で評価を行う。※試験内容は授業内で告知する。
・2/3以上の出席がない場合は、レポートの提出を必須とし、提出がなければ成績評価は行わない。

【授業の特徴・形式】

・実技で実施。
・二人一組で行う。

【教科書・参考書】

【　講義の内容・日程　】		
回	講義内容	備考
1	概論	実技
2	ストレッチ	実技
3	テーピング	実技
4	テーピング	実技
5	テーピング	実技
6	テーピング	実技
7	総復習	実技
8	総復習	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	職業倫理	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
職業としての柔道整復の倫理とは何かを考え，信頼させる医療人となるための基礎知識について，社会で話題となっているテーマを取り上げながら幅広い目線，考え方を身につけることを目標とする.
柔道整復師という国家資格を有して，職業に就くことについて再考し，職業としての柔道整復師を説明できる.
また柔道整復師が現場で経験するであろう安全管理等に関する知識を身につける.

【講義概要】
職場の安全管理や医療従事者の倫理等をテーマに学ぶ。
柔道整復師としての倫理を踏まえ、医療者としてのコミュニケーションをテーマに医療者－患者関係の構築についても学ぶ。
また，柔道整復師という国家資格を有して，職業に就くことについて再考する。

【成績評価方法】
原則、定期試験にて評価する。

授業とは関係のない私語，電子機器の操作，無断の入退室など，不適切な授業態度がみられる者、
小テストについて10％の範囲内で減点法にて評価に加える.

【授業の特徴・形式】
教科書および配布プリントを用いた講義形式にて行う。
適宜、確認テストを行うので、復習を必ず行うこと。

【教科書・参考書】
配布プリント
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　全国柔道整復学校協会 監修　（医歯薬出版）
関係法規 2024年版　全国柔道整復学校協会 監修　（医歯薬出版）
衛生学・公衆衛生学 改訂第6版　全国柔道整復学校協会 監修　（南江堂）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	職業倫理とは	講義
2	医療倫理	講義
3	医療面接	講義
4	患者の権利	講義
5	個人情報の保護	講義
6	医療の安全（リスクマネジメント）	講義
7	医療の安全（医療事故と医療過誤）	講義
8	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	社会保障制度	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
柔追整復師は開業することが可能である。医療費等の社会保障制度を理解することにより,
健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう必要な知識を身に付ける。

【講義概要】
患者に対する施術は外傷等に苦しむ者を支えるために不可欠のものであるが，治療費等の経済面も大きな悩みとなる。また多くの障害者や高齢者は，高い医療ニーズに加え，生活面での基本的なニーズ等をもっており，彼らの支援にかかわる制度の全体を知らずに，障害者や高齢者を支えることは不可能になっている。
支援に関わる制度や柔道整復師の療養費に関わる制度について学ぶ。

【成績評価方法】
原則、定期試験にて評価する。

授業とは関係のない私語，電子機器の操作，無断の入退室など，不適切な授業態度がみられる者、
小テストについて10%の範囲内で減点法にて評価に加える.

【授業の特徴・形式】
教科書および配布プリントを用いた講義形式にて行う。
適宜、確認テストを行うので、復習を必ず行うこと。

【教科書・参考書】
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　全国柔道整復学校協会 監修　（医歯薬出版）
配布プリント
関係法規 2024年版　全国柔道整復学校協会 監修　（医歯薬出版）
衛生学・公衆衛生学 改訂第6版　全国柔道整復学校協会 監修　（南江堂）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	社会保障とは　pp.1～4	講義
2	社会福祉制度　pp.4～7	講義
3	社会保険制度（公的年金）　pp.4～6	講義
4	社会保険制度（介護保険）　pp.6	講義
5	社会保険制度（医療保険）　pp.7～16	講義
6	柔道整復師の療養費（受領委任払い）　pp.19～25	講義
7	柔道整復師の療養費（施術管理者制度）　pp.23～32	講義
8	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 2期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	関係法規	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
柔道整復師の法的な位置づけを理解する.
柔道整復の業務に関連する法を理解する.
医療に関する法を理解する.

【講義概要】
まず，法の基礎を解説する．その後，柔道整復師に関連する法を中心に，柔道整復師の法的位置づけと業務に関する法を解説する．さらに，医療に関するその他の法を解説する.

【成績評価方法】
定期試験（70%），授業内実施の確認テスト（30%）

授業態度については，授業とは関係のない私語，電子機器の操作，無断の入退室など，
不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える.

【授業の特徴・形式】
教科書および配布プリントを用いた講義形式にて行う。
適宜、確認テストを行うので、復習を必ず行うこと。

【教科書・参考書】
関係法規 2024年版　全国柔道整復学校協会 監修（医歯薬出版）
配布プリント

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	法の意義、法の体系 pp.1～8	講義
2	柔道整復師法の目的、柔道整復師免許 pp.10～14	講義
3	柔道整復師名簿、柔道整復師免許証 pp.14～19	講義
4	柔道整復師国家試験 pp.20～23	講義
5	柔道整復師の業務 pp.24～28	講義
6	施術所、広告 pp.29～36	講義
7	罰則，指定登録機関及び指定試験機関 pp.37～44	講義
8	柔道整復師法に関するまとめ	講義
9	医療従事者の資格法（医師法、歯科医師法） pp.47～56	講義
10	医療従事者の資格法（保健師助産師看護師法、薬剤師法など） pp.56～68	講義
11	医療法①（総論） pp.69～78	講義
12	医療法②（病院、診療所及び助産所） pp.79～90	講義
13	社会福祉関係法規 pp.91～95	講義
14	社会保険関係法規 pp.96～104	講義
15	個人情報保護法 pp.105～109	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 1期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道③	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投の形の理合を理解し、認定実技審査に合格できるようにする。

【講義概要】
武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

【成績評価方法】
評価項目：授業意欲、、実技試験、（レポート）。
評価割合：授業意欲、態度５０％、実技試験５０％の合計１００％
※出席回数（各学期にて３回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）

【授業の特徴・形式】
柔道実技（礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技、投の形）

【教科書・参考書】
柔道　（南江堂）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	礼法、姿勢、歩き方、受身(後受身、前受身、横受身、前回受身)	実技
2	手技(浮落、背負投、肩車)	実技
3	手技(浮落、背負投、肩車)	実技
4	腰技(浮腰、払腰、釣込腰)	実技
5	腰技(浮腰、払腰、釣込腰)	実技
6	足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
7	足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
8	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
9	礼法、受身、立技　打込、移動打込、投込、乱取	実技
10	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
11	礼法、受身、立技　打込、移動打込、投込、乱取	実技
12	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
13	礼法、受身、立技　打込、移動打込、投込、乱取	実技
14	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
15	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	◎荒井 一彦 井口 良平 紺野 直能 菊地 正 吉田 晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講③	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復術の施術のうち骨折・脱臼を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

【講義概要】
・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できす技能・知識の習得も目的とする。

【成績評価方法】
・授業内試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度および試験で総合的に判断で判定する。
※3回以上の欠席は授業内試験の受験を認めない。

【授業の特徴・形式】
・実技形式による授業とする。

【教科書・参考書】
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	鎖骨骨折の診断・整復	実技
2	鎖骨骨折の診断・整復	実技
3	鎖骨骨折の診断・整復	実技
4	鎖骨骨折の診断・整復	実技
5	上腕骨外科頚骨折の診断・整復	実技
6	上腕骨外科頚骨折の診断・整復	実技
7	上腕骨外科頚骨折の診断・整復	実技
8	上腕骨外科頚骨折の診断・整復	実技
9	コーレス骨折の診断・整復	実技
10	コーレス骨折の診断・整復	実技
11	コーレス骨折の診断・整復	実技
12	コーレス骨折の診断・整復	実技
13	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
14	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
15	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
16	まとめ	実技
17	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
18	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
19	肩関節脱臼の診断・整復	実技
20	肩関節脱臼の診断・整復	実技
21	肩関節脱臼の診断・整復	実技
22	肩関節脱臼の診断・整復	実技
23	肩関節脱臼の診断・整復	実技
24	肘関節脱臼の診断・整復	実技
25	肘関節脱臼の診断・整復	実技
26	肘関節脱臼の診断・整復	実技
27	肘関節脱臼の診断・整復	実技
28	肘内障の診断・整復	実技
29	肘内障の診断・整復	実技
30	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	◎荒井 一彦 井口 良平 紺野 直能 菊地 正 吉田 晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講④	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復術の施術のうち軟部組織損傷を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

【講義概要】
・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できす技能・知識の習得も目的とする。

【成績評価方法】
・授業内試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度および試験で総合的に判断で判定する。
※3回以上の欠席は授業内試験の受験を認めない。

【授業の特徴・形式】
・実技形式による授業とする。

【教科書・参考書】
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	肩腱板損傷の診察	実技
2	肩腱板損傷の診察	実技
3	肩腱板損傷の診察	実技
4	肩腱板損傷の診察	実技
5	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
6	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
7	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
8	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
9	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
10	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
11	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
12	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
13	大腿四頭筋の打撲損傷の診察	実技
14	大腿四頭筋の打撲損傷の診察	実技
15	まとめ	実技
16	膝十字靭帯損傷の診察	実技
17	膝十字靭帯損傷の診察	実技
18	膝十字靭帯損傷の診察	実技
19	膝十字靭帯損傷の診察	実技
20	膝側副靭帯損傷の診察	実技
21	膝側副靭帯損傷の診察	実技
22	膝側副靭帯損傷の診察	実技
23	膝側副靭帯損傷の診察	実技
24	膝半月損傷の診察	実技
25	膝半月損傷の診察	実技
26	下腿三頭筋の肉ばなれ損傷の診察	実技
27	下腿三頭筋の肉ばなれ損傷の診察	実技
28	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
29	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
30	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1期、2期	◎荒井一彦 井口良平 瀬谷智美	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講⑤	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復術の施術のうち固定を中心に実践的施術実技を習得する。

【講義概要】
・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できす技能・知識の習得も目的とする。

【成績評価方法】
・授業内試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度および試験で総合的に判断で判定する。
※3回以上の欠席は授業内試験の受験を認めない。

【授業の特徴・形式】
・実技形式による授業とする。

【教科書・参考書】
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容		備考
1	鎖骨骨折の固定法		実技
2	鎖骨骨折の固定法		実技
3	上腕骨骨幹部骨折の固定法		実技
4	上腕骨骨幹部骨折の固定法		実技
5	コーレス骨折の固定法		実技
6	コーレス骨折の固定法		実技
7	第5中手骨頸部骨折の固定法		実技
8	第5中手骨頸部骨折の固定法		実技
9	下腿両骨骨幹部骨折の固定法		実技
10	下腿両骨骨幹部骨折の固定法		実技
11	肋骨骨折の固定法		実技
12	肋骨骨折の固定法		実技
13	まとめ		実技
14	まとめ		実技
15	肩鎖関節上方脱臼の固定法		実技
16	肩鎖関節上方脱臼の固定法		実技
17	肩関節脱臼の固定法		実技
18	肩関節脱臼の固定法		実技
19	第2指PIP関節背側脱臼の固定法		実技
20	第2指PIP関節背側脱臼の固定法		実技
21	肘関節脱臼の固定法		実技
22	肘関節脱臼の固定法		実技
23	足関節外側靭帯損傷		実技
24	足関節外側靭帯損傷		実技
25	アキレス腱断裂の固定法		実技
26	膝関節のテープ固定		実技
27	膝関節のテープ固定		実技
28	足関節のテープ固定		実技
29	足関節のテープ固定		実技
30	まとめ		実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	3年生 第1･2･3期	◎荒井一彦 ･吉田 晋･紺野直能 ･井口良平･菊地正	
講義区分	授業科目名		
基礎分野	臨床実習(3年生)	1 単位 45 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。

【講義概要】
・学校附属臨床実習施設での最終臨床実習とし、将来につながる技術の研鑽に努める。

【成績評価方法】
・評価の観点は、意欲態度（35%）付帯業務（10%）診察補助（40%）業務理解（15%）の 4 項目とする。
・実習過程で学生の進捗状況を評価し、まとめる。

【授業の特徴・形式】
・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・包帯固定学　南江堂
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【　講義の内容・日程　】			
回	実施日	講義内容	備考
1	第1～4日目	指導教員に随行し下記の項目を補助し実践的に学習する。	実技
2		・受付業務	実技
3		・初診	実技
4		・再診	実技
5		・整復、手技	実技
6		・患部固定	実技
7		・運動療法	実技
8		・指導管理	実技
9		・開始時・終了時の業務	実技
10		ロールプレイ	実技
11	第5日目	総まとめ	実技